

大人になったらなりたいもの

大阪教育大学 佐久間敦史

2021年、大阪教育大学に新しい大学院ができました。その中に、「高度教育支援開発専攻教育ファシリテーションコース」があります。少し難しい名前ですが、新しい時代の学校や教育課題の解決を考えるコースです。何より、このコースの特色は、多様な職種の方が集まっていることです。ICT等の先端技術、社会教育や福祉、芸術活動、医療やスポーツに関わる人などが、その優れた実務・実践経験や専門性を活かして、子どもたちの教育のために何ができるかを考える大学院です。

私の講義は、「社会に開かれた教育課程の実践研究」です。教育課程というのは、学校が教育目標を達成するために、子どもたちへの教育の内容や順序を計画したものです。変化の激しいこれからの時代には、よりよい未来のために、子どもたちにどのような教育が必要かを明らかにし、社会と連携・協働してその実現を図っていくことが重要です。昔のように、閉ざされた教室で教員が、教科書と黒板で教えるのではなく、生活科や総合的な学習の時間を教育課程の軸として、各教科とも関連しながら、地域と協働して教育を行おうというのが今日の教育です。

この講義の成果は上々で、実際の小学校の計画である「防災」や「インクルーシブ・パークの創造」に関する総合的な学習の計画を再検討し、医療、福祉、情報、芸術、地域住民など、それぞれの立場でのアイデアと、人権や環境をはじめとするSDGsの観点をコラボレーションして、とても素敵な学習計画ができあがりました。受講生は、「地域や社会に、子どもたちの持っている力と情熱が出合うような総合的な学習の時間を創りたい。1人の市民、社会人として、できることを見つけていきたい」（コミュニケーションカードより）との意気込みです。

さて今年も、「大人になったらなりたいもの」調査（第一生命）の結果が発表されました。中高生の上位は、「会社員」「公務員」「ITエンジニア/プログラマー」「看護師」です。「会社員」は、コロナ禍での在宅ワークで、その職業がイメージできたからとの分析です。特筆すべきは、中高生が職業を選んだ理由です。1位の「好きだから」に次いで、2位は、「誰かの役に立ちたいから」です。子どもたちの未来のために教育支援をしようとする先の社会人たちと、将来、誰かの役に立ちたいと思う子どもたち。両者の思いと願いが会える教育で、温かく心豊かな街の未来が創られるでしょう。